Kawara-Ban

弘大研究NEWS 1月

かわらばん

Vol.8

研究をおもしろく わかりやすく！

2021年1月4日
発行：研究・イノベーション推進機構
https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/

CONTENTS
①知財塾のお知らせ
②研究公正コラム

2021年がスタート！　研究に新しい風を吹かせよう

いよいよ2021年，令和３年が始まりました！今年は，きっと良い年になるはずと信じて，新しい年を元気にスタートしましょう♪

さて，今年最初のお知らせは，知財塾からです。
研究・イノベーション推進機構では，昨年10月に施行された“改正著作権法”に関わる，著作物の取り扱い，論文盗用の検証や書籍情報の検索，コロナ禍での対応等に関する「知財塾」を開催します。
教育・研究の場にかかわる著作権の法改正がなされたことに伴い，正しい知識を得る絶好の機会です。
新しい年の始まりに，新たな知識を習得しましょう。

令和３年１月１４日（木）16:00～17:30　※WEB

「大学における著作権と研究倫理－著作物の正しい利用方法－」
（改正著作権法に関する解説）

講師：山口大学国際総合科学部　教授　小川明子 氏
（大学研究推進機構　知的財産センター長）

※参加を希望される方は，氏名，所属・役職，連絡先を記載し，令和３年１月８日（金）までに，下記連絡先までお申し込みください。
E-mail：chizai@hirosaki-u.ac.jp

研究公正コラム 「ゆでがえる」

皆さんは，「ゆでがえる」という言葉をご存知でしょうか。
煮えたぎる鍋にカエルを入れようとしても、カエルは嫌がって入ってくれませんが、水を入れた鍋であればおとなしく入ってくれます。この鍋を火にかけてゆっくり温めていくと、カエルはそれに気づかず、最後にはゆであがってしまう・・というお話です（注：実際にはカエルは逃げます）。
クラブ活動やアルバイトを始めた時、研究室や新しい学会に入った時、「え！ここではこんな考え方をするのか」とか、場合によっては「このやり方は普通じゃない」と思った経験はないでしょうか。そして、一年も経つと、それがあたかも当然であるかのように後輩や新人にその考え方ややり方を押し付けていた経験はないでしょうか。
人は誰しも、いくつかの組織に属していますが、組織はある目的を達成するための集団であり、多くの場合、組織の価値観は世の中の平均的な価値観からずれています。このずれを認識しておかないと、自分たちの組織の価値観が世の中でも標準だ、と錯覚してしまいます。
企業や大学、官公庁での不祥事が度々報道されていますが、当事者のコメントには、常識を欠いているように思えるものが少なくありません。これは、彼らが組織という鍋の中でゆであがっているため、それが当然であり、標準だと錯覚してしまっているからなのです。

研究室・教室という狭いコミュニティに属している皆さん，あなたは「ゆでがえる」になっていませんか？
※国立研究開発法人AMED『研究公正に関するヒヤリ・ハット集』p.34より抜粋

さあ，気を引き締めて，講演会に参加！

令和２年度 **弘前大学研究不正防止講演会　※Teams**

日時 ： 令和３年１月２１日(木)

１５：００～１５：４０（第一部）
弘前大学理事　若林 孝一（研究・イノベーション推進機構長）
「研究不正を防止するために～過去の事例から見えてくるもの～」

１５：４０～１６：２０（第二部）
医学研究科 教授　藤井 穂高（リスクマネジメント部門長）
「大学教職員が気を付けるべき安全保障輸出管理」

※各部局総務グループにお申し込みください（1/13〆切）